

Title	臨床哲学のメチエ 第14号 編集後記
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2005, 14, p. 30-30
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5945
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

企画内容は文字どおり二転三転しました。

当初は2003年度の「出会いのてつがく」の授業内容の報告となるはずでしたが、各学期の授業責任者がそれぞれ慣れない非常勤の準備に追われたり、米国へ留学したり、大学外での仕事に忙殺されたりして、挫折。この時点で私の頭の中ではすでに「ML上で流した授業報告をそのまま使用しよう」という悪知恵が働きだしていました。

とはいえ、「MLの報告だけではなあ」という思いもあり、他のトピックとうまく抱き合わせることができないかと思案し、去年の初夏の頃からML上で沸き起こった臨床哲学にかんする論争（「臨床哲学は共同作業たりえているか」「哲学カフェにおいて進行役の役割とはいかなるものか」などが主な話題）をセットにしようと思いい立ちました（藤本さんの文章の冒頭の言葉はこのML上での議論のことが念頭に置かれています）。しかし、しょせん内輪の議論にすぎないものを「外」へ発信するのはいかなるものかという意見もあって、これも挫折。

そうこうしているうちに2004年度の洛星高校での授業までもが終了してしまい、年度さえもが改まってしまいました（したがって、2004年度の『メチエ』は一冊のみ発行）。「ともかく、早急に作れ！」という紀平さんの檄のもと、なんとかこぎ着けたのが今回の『メチエ』です。大幅に発行が遅れてしまったことを深くお詫びいたします。

なお編集作業のさいには紀平さんの手をたびたび煩わせ、最後の詰めの段階では高橋さんに手伝っていただきました。お二人に感謝いたします。

（三浦）